



W.S.P
WORLD SCAN PROJECT

エアモビリティ市場におけるSTAR WALKERS事業

NOVEMBER 2025


STAR WALKERS



空中移動の常識を変える STAR WALKERS



革新的なデザイン。直感的に操れる操作性。
未来の移動を叶える、空飛ぶスポーツカー「STAR WALKERS」。
高度なセンサーとGPSシステムが飛行の安定性を確保し、障害物回避や自動着陸システムも搭載。どんな瞬間も安心して使えるよう、細部まで設計されています。

空をもっと身近に、もっと自由に——
STAR WALKERSが、新しい移動のカタチを創り出します。



他にない 長時間の飛行性能

STAR WALKERSの飛行時間は最大15分。空飛ぶスポーツカーとして、他に類を見ない長時間の飛行性能を誇ります。



解放感のある オープンデザイン

風を感じながら、広がる景色をそのまま楽しめるオープンコックピットデザイン。どこまでも続く視界を、ぜひ体感してください。



パワフルに動作する 8つの電動モーター

独立して動作する8つの電動モーターが搭乗者の重みをしっかりと支え、スムーズで安定性の高いフライトを実現します。

車で運べるコンパクトな設計

STAR WALKERSはワンボックスカーに収まるコンパクトな設計で、運搬が驚くほど簡単。場所を選ばず、さまざまなシーンでその機動力を発揮します。
災害時には車でアクセスできるエリアまで運び、そこから先の複雑な地形やアクセスが困難な地域にはSTAR WALKERSでスムーズに移動可能。これにより、被災地での物資輸送や救援活動をスピーディかつ効率的にサポートします。
さらに、軽量で扱いやすいためレジャーシーンでも大いに力を発揮。空中散歩や空からの観光を好きな場所で楽しむことができます。



自動運転と障害物回避



高度なセンサー技術とGPSシステムにより、周囲の状況を正確に把握し、飛行の安定性を確保。自動遠隔操作に加え、自動運転と障害物回避を備えることで、より安全な飛行を可能にしました。

自動着陸システム



バッテリー残量が少なくなった際や、予期せぬ事態が発生した場合でも安心。システムが自動的に着陸地点を選び、安全に着陸します。

直感的な操作と快適な飛行体験



誰でも簡単にフライト可能

難しい訓練を必要としない直感的でシンプルな設計



優れた静音性と軽量化

あらゆる場所で快適に使用することが可能



効率的なバッテリーシステム

短時間充電で快適な飛行を実現



脱炭素化で環境負荷を低減

二酸化炭素を排出しない、持続可能な未来の移動手段

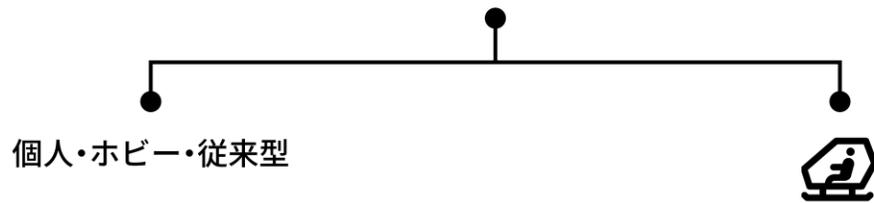
STAR WALKERSは、日本の技術者たちによって設計・製造されたメイド・イン・ジャパンの空飛ぶスポーツカーです。2021年から着実に開発を進め、障害物回避、自動着陸、緊急停止などの安全機能を備えた安全性の高い機体設計を実現しました。



2. 「空飛ぶクルマ市場」と「エアモビリティ市場（AAM）」の定義

空飛ぶクルマ市場

人の移動を目的とした
小型eVTOL・パーソナルフライト機を中心とする市場



エアモビリティ市場(AAM)

電動垂直離着陸機(eVTOL)を活用した次世代航空
モビリティ全体。人・物の移動を含む。

AAMは、空飛ぶクルマ市場の中核を成す“商業・社会インフラ型のサブカテゴリ”です。
広義の空飛ぶクルマ市場が個人用・商業用・レジャー用途をすべて含むのに対し、AAM
は中でも都市型・商業型のeVTOL(電動垂直離着陸機)を中心とした領域を指し
ます。

エアモビリティ市場(AAM)



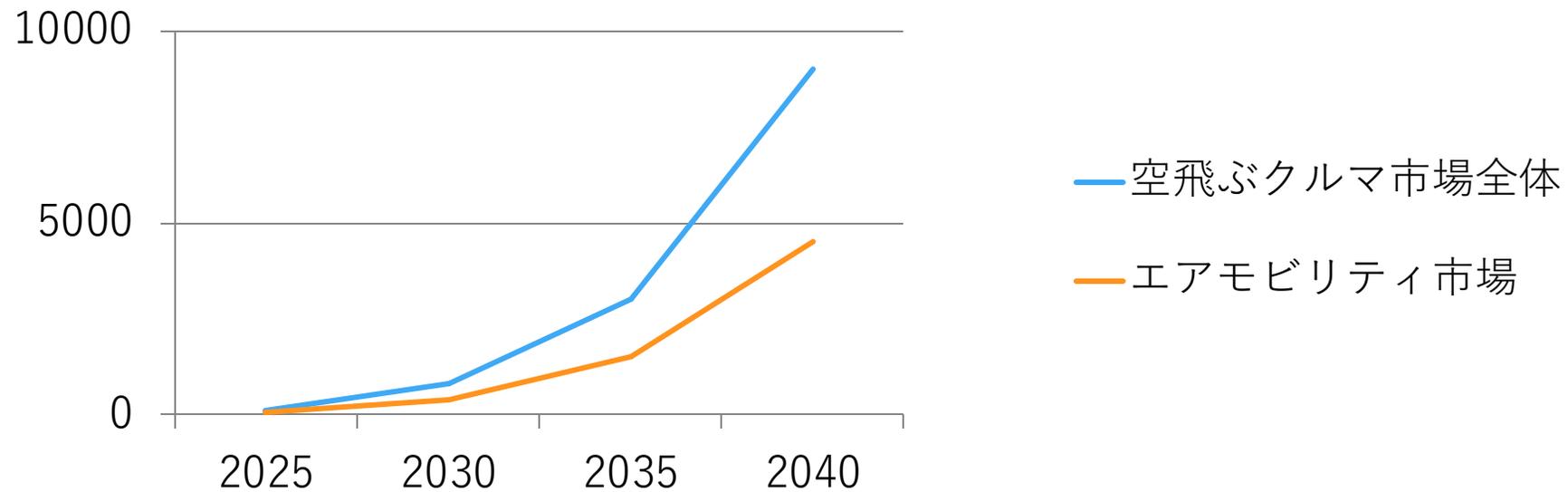
参考出典

- ・Morgan Stanley (2023): AAMはFlyingCar市場の中で商業・都市型モビリティ領域を指す。
- ・PwC Mobility Outlook (2023): AAMは空飛ぶクルマ市場の中核であり、AirTaxi・Cargo用途が中心。
- ・経済産業省『空の移動革命ロードマップ2023』: AAM＝社会インフラとしての空のモビリティ。

3.世界市場推移

単位：億USD

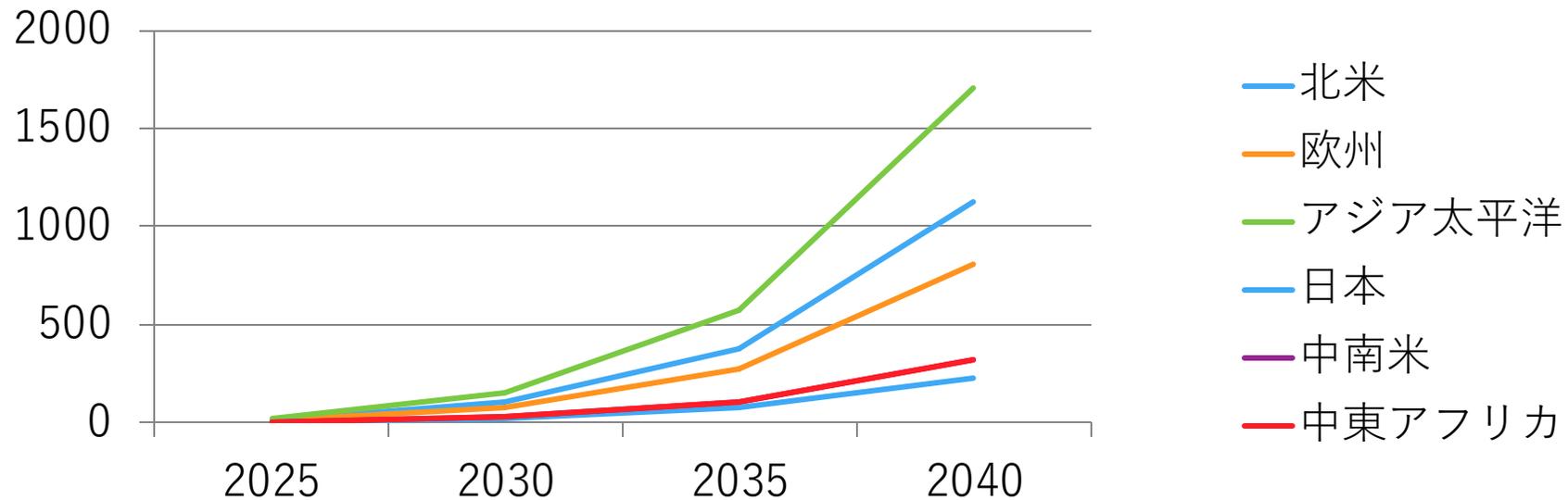
年	空飛ぶクルマ市場全体	エアモビリティ市場	構成比 (%)
2025	100	50	50.0
2030	800	400	50.0
2035	3,000	1,500	50.0
2040	9,000	4,500	50.0



4.地域別市場推移

単位：億USD

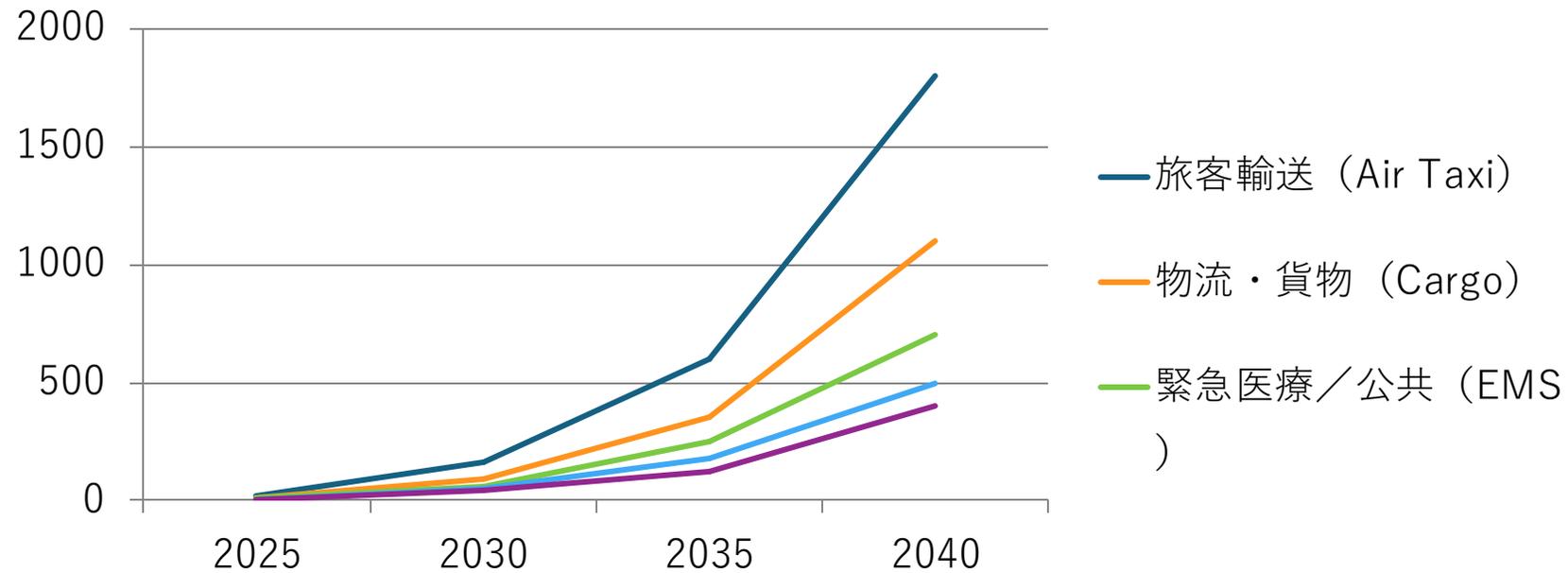
年	北米	欧州	アジア太平洋	日本	中南米	中東 アフリカ	合計
2025	12.5	9.0	19.0	2.5	3.5	3.5	50
2030	100.0	72.0	152.0	20.0	28.0	28.0	400
2035	375.0	270.0	570.0	75.0	105.0	105.0	1,500
2040	1,125.0	810.0	1,710.0	225.0	315.0	315.0	4,500



5.エアモビリティ市場の内訳（世界）

単位：億USD

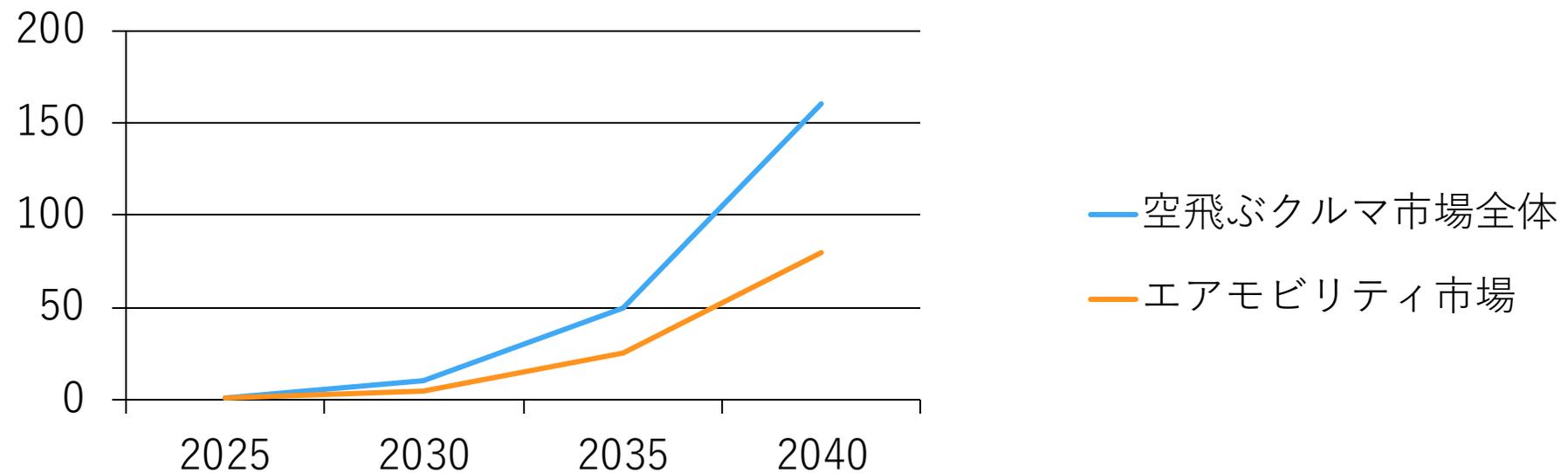
年	旅客輸送 (Air Taxi)	物流・貨物 (Cargo)	緊急医療 公共 (EMS)	観光 レジャー	その他 (防災・行政等)	合計
2025	20	10	8	7	5	50
2030	160	90	60	50	40	400
2035	600	350	250	180	120	1,500
2040	1,800	1,100	700	500	400	4,500



6.国内市場推移

単位：億USD

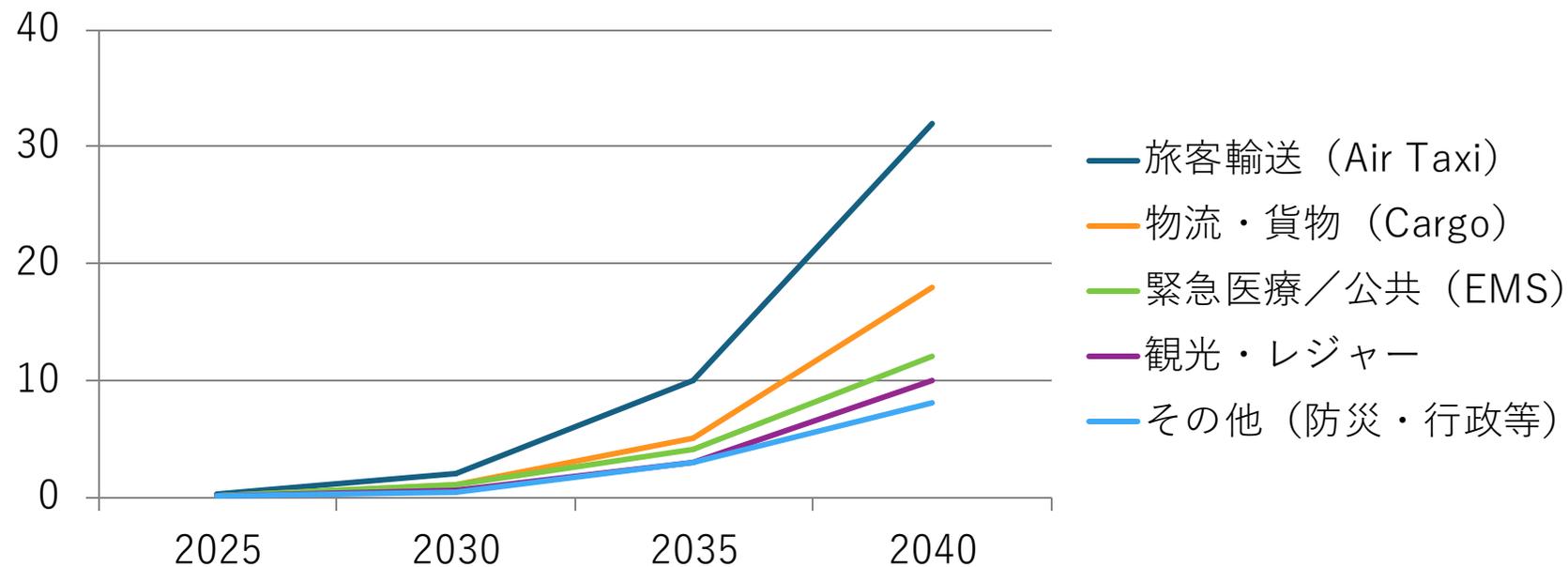
年	空飛ぶクルマ市場全体	エアモビリティ市場	構成比 (%)
2025	1.0	0.5	50.0
2030	10.0	5.0	50.0
2035	50.0	25.0	50.0
2040	160.0	80.0	50.0



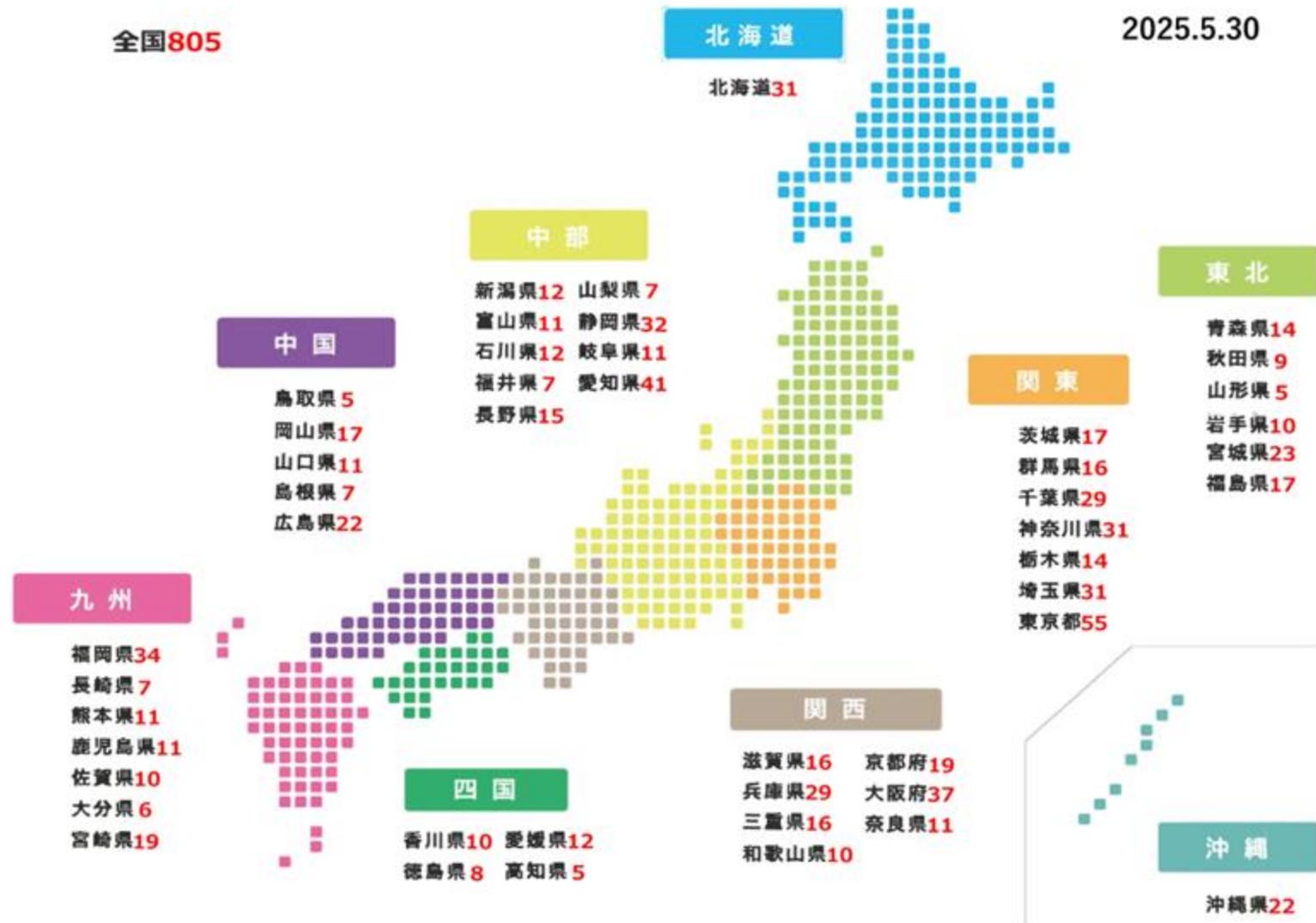
7.エアモビリティ市場の内訳（国内）

単位：億USD

年	旅客輸送 (Air Taxi)	物流・貨物 (Cargo)	緊急医療 公共 (EMS)	観光 レジャー	その他 (防災・行政等)	合計
2025	0.2	0.1	0.1	0.05	0.05	0.5
2030	2	1	1	0.6	0.4	5
2035	10	5	4	3	3	25
2040	32	18	12	10	8	80



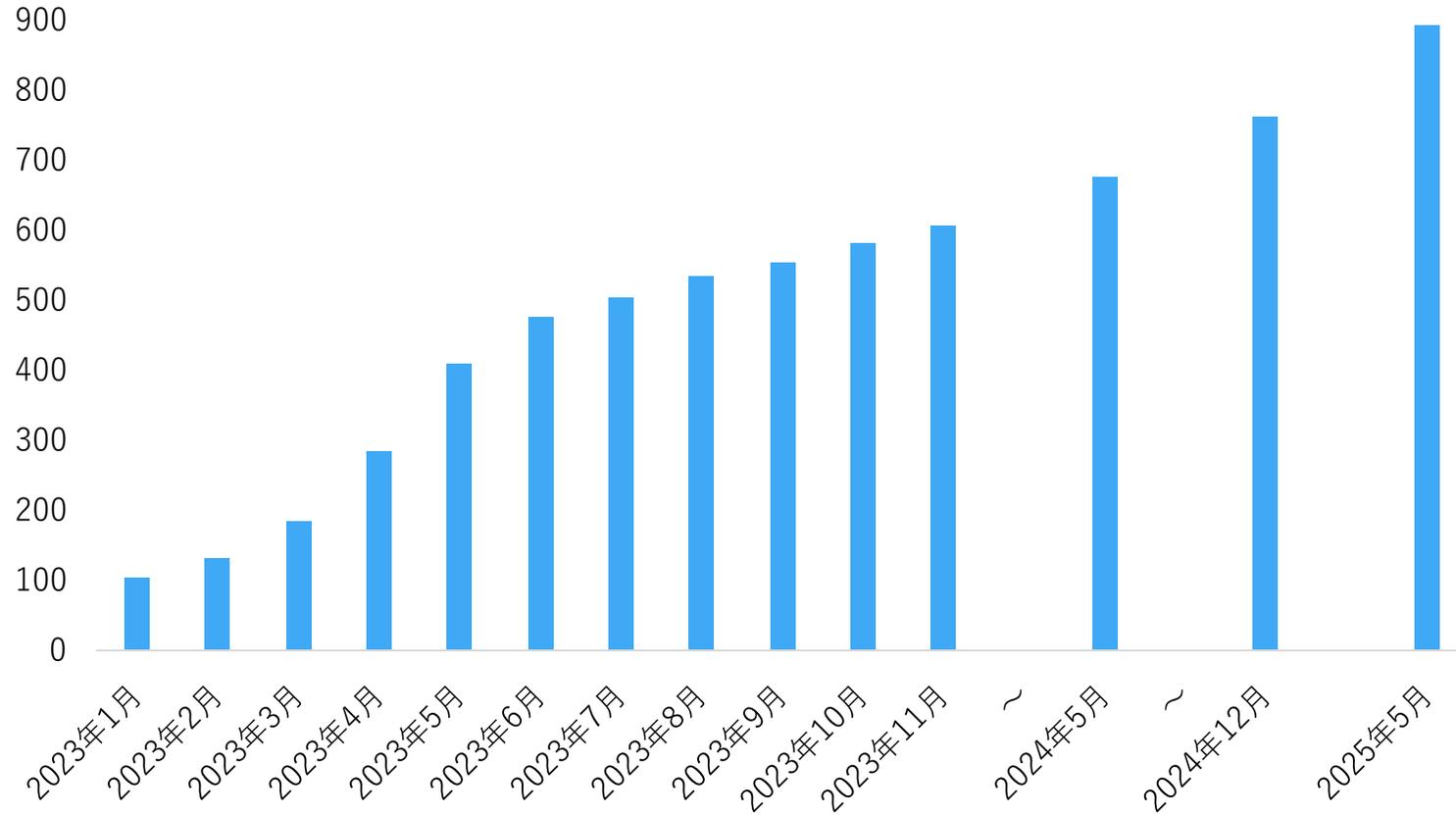
8. ドローンの登録講習機関



※ 国土交通省資料の「登録講習機関一覧（回転翼航空機（マルチローター）」に記載されている「事務所名」に従って算出

8. ドローンの登録講習機関

1000 (2025年5月30日時点)



無人航空機の操縦者技能証明（国家資格）を受けようとする人に講習を行うためのドローンスクール数（登録講習機関事務所数）は日本全国で805を数えるまでになりました。

※登録講習機関（法人）において、講習事務を行う拠点が事務所です。講義室や実習用空域は事務所と異なる場所にあるケースもあります。

9.航空機パイロット訓練時間 訓練時間比較表2025年版（国内）

🏠 プライベート利用（自家用）

航空機種類	最低時間	実訓練時間	訓練期間	費用目安
空飛ぶ車(超軽量)	なし	約1時間	1日	数十万円
空飛ぶ車(通常型)	40時間(想定)	40-60時間	3-6ヶ月	未定
ヘリコプター	40時間	60-100時間	6-10ヶ月	800-1,270万円
小型飛行機	40時間	50-80時間	6-12ヶ月	500-800万円
グライダー	15時間	20-30時間	3-6ヶ月	100-200万円

🏢 商用利用（事業用・職業パイロット）

航空機種類	資格レベル	必要飛行時間	訓練期間	年収目安	就職難易度
空飛ぶ車	商用運航	100-200時間(推定)	1-2年(推定)	未定	新市場形成中
	完全自動運航	検討中	6ヶ月以下(想定)	-	将来有望
旅客機	副操縦士	200-250時間	2-4年(平均5年)	800-1,200万円	★★★★★
	機長	3,000-5,000時間	訓練開始から15年	1,500-2,000万円	★★★★★
ヘリコプター	事業用	150時間以上	1-2年	500-800万円	★★★
戦闘機	戦闘機パイロット	340時間	4-6年	公務員給与	選抜制

📊 訓練プロセス比較

段階	空飛ぶ車	旅客機	ヘリコプター	戦闘機
初期訓練	シミュレーター中心	座学+小型機	実機訓練中心	T-7初等練習機
中級訓練	実機+自動操縦	ジェット機移行	タービン機移行	T-4(65時間)
上級訓練	都市間飛行	路線訓練	計器飛行	実戦機訓練
ライセンス	将来簡素化	国家資格必須	国家資格必須	自衛隊内資格
定期審査	検討中	年2回	年1-2回	継続評価

💰 費用・投資対効果

航空機種類	訓練費用総額	投資回収期間	市場成長性
空飛ぶ車(超軽量)	数十万円	趣味利用	急成長期待
空飛ぶ車(商用)	数百万円(推定)	3-5年(推定)	2027年実用化
旅客機	2,000万円以上	5-10年	安定成長
ヘリコプター	800-1,270万円	4-7年	需要増加中
戦闘機	国費(数億円相当)	-	限定的

🚗 空飛ぶ車の特徴

- 2025年大阪万博でデモフライト
- 超軽量型はライセンス不要（約1時間訓練のみ）
- 自動操縦技術により訓練大幅短縮の可能性
- 将来的に「空の自動車教習所」レベルへ

⚠️ 重要な注意事項

- 空飛ぶ車は現在規制整備中（数値は推定含む）
- 国により訓練時間・要件が異なる
- 海外訓練は日本の約半分の時間で取得可能
- 技術革新により要件は随時変更の可能性

📈 市場動向と将来性

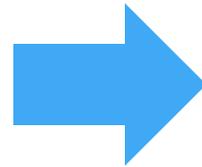
- 最有望：空飛ぶ車（新市場創出）
- 需要増：ヘリコプター（ドクターヘリ等）
- 安定：旅客機（パイロット不足継続）
- 自動化により必要パイロット数は将来減少予測

アメリカで2025年7月に発表された「MOSAIC」（連邦航空法の大規模改訂）は、これまでの航空機規制を根本的に変える画期的な内容です。そのため、世界各国がMOSAICに追従し、軽量スポーツ航空機分野の法整備が進んでいます。

■軽量スポーツ航空機（LSA）の定義拡大

従来の制限

最大離陸重量：600kg
最大座席数：2座席まで
最大速度：120ノット



新しい条件（MOSAIC後）

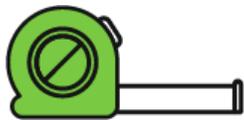
重量制限：撤廃（失速速度による制限のみ）
最大座席数：4座席まで
最大速度：250ノット
電動航空機も対象
eVTOL（パワードリフト）機も対象

特にSTAR WALKERSのような軽量で革新的な航空機にとっては、非常に追い風となる変化が含まれています。

■STAR WALKERSにとっての重要なメリット

- ・ 従来のFAA型式証明・生産証明が不要
- ・ 工業規格の様な「適合宣言書」のみで済むため、認証手続きが大幅簡素化
- ・ 開発期間とコストの劇的削減
- ・ 用途拡大による市場機会の増大
- ・ 操縦資格が緩和され、スポーツパイロット免許（17歳以上、20時間飛行訓練）で操縦可能
- ・ 自動車運転免許があれば身体検査不要（日中有視界飛行）
- ・ より多くのユーザーがアクセス可能

■STAR WALKERSがMOSAIC後に新たに可能となった業務用途



航空測量
写真撮影



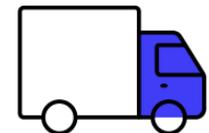
パイプライン
農地監視



救助・搜索活動



広告・バナー曳航

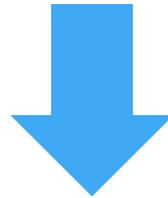


物流

■STAR WALKERS組み立てキット販売と「51%ルール」

組み立て式航空機に関しては、所有者が組み立て作業の51%以上を自分で行った場合、完成した機体の整備を自分で行うことができます。

今回の航空法改正により、講習を受けることで、すでに完成しているキット機を購入してもこの「51%ルール」を継承できるようになります。



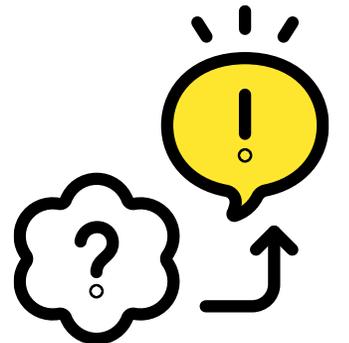
組み立てキット機市場が一気に活性化することが予想されています。

■世界のトレンド・傾向

- ・都市型エアモビリティの社会実装が進展
- ・eVTOL機体の開発・認証が世界で加速
- ・環境負荷低減、ゼロエミッション化への取り組みが強化
- ・Vertiport（離着陸場）、充電網のインフラ整備が進行
- ・官民連携、法制度構築が整備段階

■日本国内の見通し

- ・2027年以降に商業運航を目指す動きが活発化
- ・国交省、経産省による規制、インフラ整備が加速
- ・地方、離島、観光地での社会実装モデルが拡大
- ・自治体×民間連携プロジェクトが多数進行中



安全性、信頼性に対する
社会受容性の確保



コスト高および商業採算性の課題



都市部空域管理 (UTM) 技術の
整備の問題



騒音、気象、バッテリー耐久など
の技術面



エアモビリティ市場は**2030年代**にかけて
商業化が本格化し、成長期に突入すると見られる。

- ◆**新たなモビリティ産業**として
次世代都市交通を変革する可能性
- ◆安全性、採算性、技術面での課題は残るが、
成長ポテンシャルは極めて高い
- ◆日本は規制整備と社会受容性の両面で
先進的な位置づけ



**STAR WALKERSの技術優位性と先行参入が、
市場拡大を牽引することが可能**

【ディスクレイマーについて】

本資料は将来予想に関するものであり、現時点における見通しや仮定に基づいています。これらには既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、実際の結果が予想と大きく異なる可能性があります。

また、本資料はシミュレーションとして作成されたものであり、記載している情報はその正確性または完全性を保証するものではありません。

本資料の全ての情報は、投資判断の根拠を形成するものを意図するものではなく、なんら具体的な推奨を行うことを意図するものでもありません。

本資料おける何らかの情報の誤り、省略または不正確さ、またはそのような情報にもとづき行われるあらゆる行為から直接もしくは間接に生じるあらゆる種類の直接的もしくは間接的な損失または損害について、そのいずれについても責任を負いません。